

創世ホール名画鑑賞会 Vol. 37 ぼけますから、よろしくお願ひします。 ～おかえりお母さん～

日時▼令和5年5月20日(土) ①10時30分～
②14時～

会場▼3階多目的ホール

入場料▼一般・大学生 前売1,000円
当日1,300円
小中高生・60歳以上 1,000円
(前売・当日共通)

※チケットの取扱について

図書館カウンターでの取扱になります。電話予約可。

上映作品▼

「ぼけますから、よろしくおねがいします。
～おかえりお母さん～」

(2022年・日本・ドキュメンタリー・101分)

監督・撮影・語り&ひとり娘▼信友直子

内容▼2018年に動員20万人を超える大ヒット『ぼけますからよろしくお願ひします。』から4年。日本中を深い感動で包んだあの物語には続きがあった。アルツハイマー病を患った母を98歳になった父が懸命に介護する日々。そんな中、新型コロナの波が押し寄せて事態は急変する



監督・撮影・語り
ひとり娘
信友直子

ぼけますから、 よろしくお願ひします。 ～おかえりお母さん～



母が認知症になっても、父は変わらぬ愛を注ぐ
結婚生活60年を過ぎた90代夫婦の生きる道



©2022 「ぼけますから、よろしくおねがいします。～

おかえりお母さん～製作委員会

主催▼創世ホール名画鑑賞会実行委員会
(問い合わせ：088-698-1100)

正派若柳流 日本舞踊の会 真 鶴

日時▼令和5年4月2日(日)
13時(12時30分開場)

会場▼3階多目的ホール 入場無料

主催▼正派若柳流真鶴会)

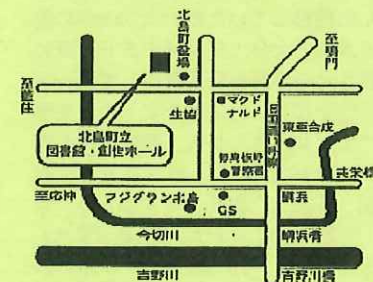
問合せ▼若柳真鶴(090-8690-4112)

※創世ホールに来場される方へ※

▼3月13日から入場される方の、マスクの着用は個人の判断に委ねることとなりました。

▼現在、観客同士の距離を一定の間に保つため、3階多目的ホールの座席数を減らしておりますが、それにつきましても令和5年5月8日から解除し、貸しホールイベントについては主催団体等の判断に委ねるものといたします。

■なお、今後の感染症拡大状況に応じて、対応を変更することがあります。ご迷惑をおかけしまして恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



池田憲章さん追悼★文化ジャーナル★第190号復刻掲載

文化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

SF特撮研究家・池田憲章氏の手紙

●今号はSF特撮研究家・池田憲章氏の創世ホール・小西館長宛書簡を、許可を得て一挙掲載します。海野十三研究などにとって重要な内容だと思えます。(編集部)

【2010年6月21日着】■前略。例の資料系同人誌即売会のパンフレットの予備がないので、完成版のカラー・コピーを送ります。同じものを四至本アイさんにも送りました。前に送った第1稿よりは読みやすくなっていると思います。感想を教えてください。同封のコピーは、2000年から日本SF大会でずっと継続して行なっている外国SFテレビの研究トーク「TVファンタスティック」(奈良のドクター松岡秀治さんの同人誌「B」プレス)と共同開催)で配布している資料です。2000年から2005年頃までは、原語のアメリカの最新SFテレビを見せて、トーク解説していたのですが、客が憶えられないので、家に持って帰って読む資料を配布した方がいいんじゃないかと、読みやすいように私と松岡さんの往復書簡の形式でトークしていくやり方を考えまして、2006年から毎年松岡さんに2人の手紙をワープロ化してもらっているものです。この資料系同人誌即売会のパンフレットで触れたグループNUTSとSVシリーズの後の1982年からの外国SFテレビ研究のアプローチが書いてあるので読んでみて下さい。日本特撮の研究と並び、私にとっては大テーマの仕事になってしまいました。「ミステリー・ゾーン」や「アウター・リミッツ」、「サンダーバード」、「謎の円盤UFO」、「インベーダー」、「プリズナーNo.6」、「宇宙大作戦/スタートレック」、「事件記者コルチャック」…と魅惑的な作品ばかり。英文資料を読み、日本語版台本を入手し、日本語版録音ディレクターに取材していく。これはやるしかありません。まあ、一読してみてください。またK書店に出版企画を持ち込んでまして、SVシリーズやファンタスティック・コレクションのような広がり新しいアプローチの編集で挑むグラフィックシリーズです。動き始めたら、内容をお知らせします。また連絡を入れるようになります。「特撮リボルテック」のホームページ用の文章は、まるで竹内博さんや安井ひさしさんを手伝ってファン・コレやケイブンの怪獣図鑑の文章を書いていた30年前みたいで、またあきれたことにスラスラ書いてしまうのです。怪獣ネームが一番好きなメイキング記事なのです。草々 2010・6・18

【2010年6月24日着】■前略。もう夏かしらというむし暑い季節がやってきて、毎日シャツを途中で着がえて動いている有様です。世界SF大会を日本で開いた井上博明さん(アニメ「王立宇宙軍」のプロデューサーでもあります)から連絡が来て、柴野拓美さんを偲ぶ会の企画に参加することになりました。高橋巖さんと清水厚さんに撮影していただいた2008年の柴野さんのインタビュー映像と2000年の日本SF大会でアニメのSF考証について語る柴野さんの映像、それに柴野さんの写真を映像構成してオープニング、そして映像で語る柴野さんの肖像を作ることになりました。来週中に高橋巖さんと打ち合わせスタートです。井上さんから、柴野さんの年譜がコピーしてもらえて、徳島の海野十三碑に柴野さんが立ち寄られた1962年8月9～14日(岐阜、大阪、徳島)、丘見丈二郎氏の名前があり、東宝特撮の「地球防衛軍」「宇宙大戦争」「宇宙大怪獣ドゴラ」「妖星ゴラス」の原作者の方ですが、丘美さんは海野十三にあこがれて海野のペンネーム丘丘十郎から丘をもらい、好きだった美男俳優の岡譲二から丈二郎とつけ

て作った作家名だと、竹内博さんと二人でインタビューした時、教えていただいた大阪出身の方です。自衛隊のテスト・パイロットで長く活躍した方です。『宇宙塵』の初期メンバーで、『おめがくらぶ』でもメンバーとして活躍した人です。大阪帝大工学部に一発で合格し、晩年は技術英語の翻訳で専門誌や企業と付き合いがちで天才肌の人で、竹内さんとびっくりした記憶があります。やはり海野十三さんを敬慕していたのだと思えました。特撮リボルテックの方は、やっと形が整ってきました。解説ネームは、われながらスラスラ書いて、かつて竹内博さんや安井ひさしさんのケイブンの怪獣図鑑やファンタスティック・コレクションの解説ネームを手伝っていた頃に鍛えられたおかげかと、怪獣倶楽部の時代の賜物と感じています。また連絡します。ますます暑くなり、雨が時に豪雨になる九州や四国のこと、気をつけてお過ごし下さい。草々

【2010年8月15日着】■前略。電話で話した『SFマガジン』のコピーと海野十三が横溝正史へ出したハガキと手紙の手で写した文章と、世田谷文学館の学芸員の人が読み下した文(誤った読みや脱落多し)のコピーを送ります。海野十三が手書きで書いたハガキや半紙を切って筆やペンで書いた文章を手で写していると、海野が目前で書いている姿が何か見えるよう、まるでこれは写経だと思ってしまう。海野の呼吸すら感じる時があります。残りは200通以上で(全体で240強の数です)あと40数日通ってやってみるつもりです。学芸員の人が誤って出してきた昭和24年1月27日の分では、海野が小磯良平の兄と同級生だったと出てきて、小磯家へ遊びに行くと会っているはずというも出てきます。色々な海野の周辺が出てきそうです。まあ、コツコツやります。この手紙を中心にした資料集の2冊目を海野十三の会です。それでは、上京してお会いするのを楽しみにしております。暑い日が続きます。お体、気をつけてください。草々
追伸 特撮リボルテックのシールは怪獣ファンのお友達に差し上げてください。イベント用の珍品です。

【2010年9月2日着】■前略。東京はまだ暑い日が続いています。都営地下鉄の近くを歩いていて「あれ？」と都からのお知らせのパンフを置いてあるマガジンラックから誰か知っている人の顔を感じました。ざらっと横に3冊、下に2段、6冊の顔がです。近づいてみるとなんと円谷英二!! 東京電機大学出身の円谷英二をネタに、神保町の隣の小川町と勝鬃(かちどき)橋(1作目の「ゴジラ」でゴジラがひっくり返ります)をからめて、6頁の巻頭特集なのです。この江戸川乱歩の造形は、たしか江戸川乱歩の紙粘土人形を作った人だと思えます。この表紙のイメージはスゴイですよ(笑)。8月25日から1ヶ月間置いてある無料広報誌で、まとめて抜いてきましたので、小西さんのまわりの怪獣ファン・特撮ファンに献呈してあげてください。これってかなりレアな小冊子になると思えますよ。いや～、怪獣ブームというか、特撮&円谷特撮ブームの予兆を感じます。来年は本多猪四郎監督生誕百年ですから、それともリンクしていくはず。一般人の目に触れるこういう小冊子の表紙に円谷英二がドカンといるのがうれしいのです。それでは、また。草々 2010・9・1

【2010年9月9日着】■前略。海野十三の横溝正史宛ての書簡、ハガキの筆者資料をコピーして送ります。世田谷文学館の読み下し文がない日もあり、ともかく目と手で確認するしかありません。横溝正史の投函しなかつ

た海野宛ての書簡が5通ほど横溝から寄贈されていて、二人のやり取りを想像させる手がかりになっていて、なかなかおもしろいです。およそ読みやすい平易な文字と文体で、横溝の人格が判るような気がしました。9月は雑用が多く、9月28日から再開します。まだまだ四十数日通わなければいけない量ですから、楽しみにしてください。草々 2010・9・8

【2010年10月5日着】■前略。神保町の児童文学関係が強い古本屋はよく覗くのですが、『児童文学への招待』という本に気づきました。加太こうじ、上笙一郎さんの二人は『思想の科学』他で『少年倶楽部』や紙芝居の大衆的な少年文学で少年少女たちがいかに熱狂したかを論陣をはった人で(もう一人が鶴見俊輔さんです)、もしやと思って開いてみたら柴野拓美さんが「子どもとSF」(こちらは小隅黎名義)、「海野十三のSF」と二ヶ所の文章を担当していて、昭和40年7月の刊行で、桃源社の大ロマンシリーズのはるか前で見事な海野十三論を展開されているのです。生前知っていれば、詳しく執筆の意図を確かめられたのですが、残念でなりません。柴野さんの文章の重要なのは、児童向けの『火星兵团』『地球要塞』『怪搭王』『浮かぶ飛行島』『太平洋魔城』『怪鳥艇』こそ代表作と語っている部分で、しかも全て掲載誌の『譚海』の「地球要塞」、『少年倶楽部』の「浮かぶ飛行島」「太平洋魔城」、『子供の科学』の「海底大陸」と初出の雑誌を特定して書いていることで、これは我々が『少年マガジン』の「巨人の星」「あしたのジョー」、『少年サンデー』の「伊賀の影丸」「0マン」「サブマリン707」、『少年キング』の「0戦はやと」「秘密探偵JA」「ワイルドセブン」「サイボーグ009」というのと同じで、書いている柴野さんが雑誌の連載で読んでいたからでしょう。そうでなければこの書き方はしないはず。ぼくらが『海野十三全集』で指摘した戦後の海野十三が沈黙していたわけではなく、戦中の「宇宙船隊」に続き、「四次元漂流」「金属人間」「怪星ガン」「未来少年」と作品を発表し続け(傑作)と柴野さんは書いてます)、少年ファンを魅了したと書いてます。海野さんの文体にある違和感を感じながらも、作品には目を通していただいでしょう。「南溟十七はあれで科学小説とは呼べない」と、怒りすら感じた。そこは海野十三さんとは大違いだった。科学の捉え方は、海野さんはおかしくなったことは殆ど無かった」と柴野さんは言っていました。この「海野十三のSF」のラストのまとめ方を読んでください。まさに、海野の夢は、若き読者の作家(この5人の中に筒井康隆がいるのです)と『宇宙塵』の代表たる柴野さんに受け継がれたのです。さらにびっくりするのは29歳の佐々木守さんが文章を書いていることで、その住所を調べると笹塚の今野勉さんのマンションになっていて、「七人の刑事」を初めて書いていた頃と判ります。作品を「なし」としている(これから書く)という気迫。すでに『記録映画』で次々に文章を発表し、創造社では大島渚氏や田村孟・石堂淑郎氏たちと映画脚本を手がけ、助監督でもがんばっていた頃です。加太さんの文章もクセはありますが(読んでみると、アチャー!?という変なところが何ヶ所あります。「鉄人28号」の辺りで)、なかなかおもしろい。「こういう本があったとは……」の思いです。だって神保町はもう40年も通っているのに気づかなかったわけ。縁がなかったのです。子どもとSFが最初に載った雑誌『子ども研究』(3号、昭和39年4月)というのも気になります。どんな雑誌なんですか? 「子どもとミステリー」なんて文章もありそうです。海野十三の手紙に、乱歩や水谷準、大下宇陀児(おおした・うだる)の名前や『世界少年』の豆記者たちが来た日(例の少年記者の楽しいインタビューです)も特定できました。まだ色々出てきそうで、次回が楽しみです。草々 2010・10・4

2010年11月号

北島町立図書館・創世ホールと深い関わりがあったSF特撮研究家の池田憲章さんが二〇二三年十月にお亡くなりになり、「文化ジャーナル」では、二〇二三年一月号と二月号で追悼特集を組みました。第三回として、「文化ジャーナル」一九〇号を復刻掲載します。この号には池田さんの六通の書簡を掲載しています。池田さんの研究家としての側面を偲ぶことが出来るかと存じます。次号は竹内博さん追悼号を復刻しお二人を偲ぶ予定です(小西昌幸)